

酸化マグネシウム服用中の透析患者における血清マグネシウム濃度

【目的】

酸化マグネシウムは効果を得やすい下剤として使用されてきたが、腎障害のある患者や高齢者で高マグネシウム血症を起こす恐れがあるとして注意喚起がされている。酸化マグネシウムを服用中の当院透析患者において、血清マグネシウム濃度を透析前後で測定し安全性を確認するとともに、マグネシウム値に影響を与える因子について検討する。

【方法】

酸化マグネシウムを服用中の当院透析患者 78 名の透析前後の血清マグネシウム値を測定する。酸化マグネシウムの平均投与量は 1.2 g であった。

【結果】

平均血清マグネシウム値は透析前 4.3mg/dL から透析後 2.7mg/dL へ有意に低下した ($P < 0.05$)。酸化マグネシウム投与量と透析前血清マグネシウム値はやや相関があった (相関係数 0.33)。透析前血清マグネシウム値と年齢・透析歴・服用歴・透析時間には相関はなかった。

【考察】

今回、酸化マグネシウムを投与中の患者で高マグネシウム血症による症状は見られなかった。透析患者への MgO の投与はまだ不明な部分があり、投与にあたっては慎重な適応の選択と定期的な血中濃度のモニタリングが必要と考える。